

# 危機管理会議 2017 実施報告書

2017年11月6-7日 ソウル

## はじめに

- 1 危機管理会議 2017 は、ソウルにおいて 2017 年 11 月 6 日から 7 日にかけて開催された。ソウル市消防災難本部（The Seoul Metropolitan Fire and Disaster Headquarters。以下、「SMFDH」という。）が、「未来を志向した防災の展開の方向性」というテーマのもと会議を主催した。会議における 4 つのサブテーマは、以下のとおりである。
  - a. 防災への様々なアプローチ – 民間、政府、社会的機関、国際協力
  - b. 未来の技術を活用したスマート防災システム
  - c. 環境の変化を踏まえた防災戦略の更新
  - d. ビッグデータを使った危機分析及び情報収集のアプローチ
- 2 9 都市から約 120 名の参加者が会議に出席した。危機管理ネットワーク参加都市からは 8 都市（ソウル・ジャカルタ・クアラルンプール・ロンドン・新北・シンガポール・台北・東京）が参加し、オブザーバーとして 1 都市（ブリュッセル）が参加した。参加者リストは別添資料 1 を参照のこと。
- 3 2 日間にわたる会議の構成は、以下のとおり。

11 月 6 日 本会議  
11 月 7 日 危機管理関連施設の視察・ソウル文化視察

詳細なプログラムは、別添資料 2 を参照のこと。

## 開会セレモニー及びプレゼンテーション（本会議）

SMFDH チョン・ムンホ長官による開会挨拶、ソウル特別市イ・ジェウオン副市長による歓迎挨拶、ソウル市議会都市安全建設委員会ジュ・チャンシク委員長による祝辞

- 4 SMFDH チョン・ムンホ長官は危機管理会議 2017（Crisis Management Conference (CMC) 2017）の開会を宣言し、世界各都市からの参加者を歓迎するとともに、出席への謝意を述べた。また、気象を原因とする災害、都市化等といったリスク要因が増加する中で、こうしたリスクを軽減することの必要性を強調し、すべての参加都市が災害に係る経験や事例を共有することによって互いに協力することが重要である旨述べた。

チョン・ムンホ長官による開会挨拶、イ・ジェウオン副市長による歓迎挨拶、ジュ・チャンシク委員長による祝辞は、別添資料 3 を参照のこと。

## グローバル・セーフ・セレモニー及び集合写真

- 5 グローバル・セーフ・セレモニーはステージ上のモザイクパーツを組み合わせるパフォーマンス。CMC2017 がソウル市のロゴ「I・SEOUL・U」と組み合わせられ、都市の安全のために「you & I（あなたと私）」の間に CMC2017 があるということを表現した。



ソウル国立科学技術大学キム・チャンオ教授及び国連国際防災戦略事務局 (The United Nations Secretariat for International Strategy for Disaster Reduction: UNISDR) アナ・クリスティーナ・ソーランド プログラムオフィサーによる基調講演

- 6 最初の基調講演は、ソウル国立科学技術大学キム・チャンオ教授による「韓国における防災システムの展望」であった。国の防災システムと、危機管理マニュアルに基づく関係機関の協力及び関係機関に対する研修を通じた自然災害への備えの課題について述べた。
- 7 国連国際防災戦略事務局 (UNISDR) プログラムオフィサー アナ・クリスティーナ・ソーランドは「災害リスク低減のための仙台枠組」について基調講演を行った。2030年までに災害による死亡者数を減少することを目指す開発アジェンダについて述べ、グローバルな災害リスク軽減を目的とする仙台枠組の紹介を行った。

サブテーマ「防災への様々なアプローチ – 民間、政府、社会的機関、国際協力」に関する参加都市のプレゼンテーション

(※以下、実際のプレゼンテーションの順番ではなく、サブテーマごとに記載している)

- 8 CMC2017のオブザーバー都市として、ブリュッセル消防局隊長 フィリップ・ド・ウェルギフォスは、「危機管理における意思決定のプロセス」に関するプレゼンテーションを行った。特に、危機管理にソシオクラシー的アプローチを用いた意思決定のプロセスについて説明した。
- 9 マレーシア市民保護局ロズラン・ワハブ副局長は、「市民社会の防災力強化」についてプレゼンテーションを行い、コミュニティにおける防災のために地域の参画を得ることが、いかにプラスの効果につながるかを示した。
- 10 新北市消防局チェン・ツン・ヨウ副局長及び同シニア技術専門家チャン・イホンは、プレゼンテーション「新北市における災害管理の実施と遂行 – より安全な都市の構築」において、より安全なまちづくりを期待して、参加都市に新北市における危機管理政策と事例を紹介した。
- 11 東京消防庁 清水洋文 企画調整部長は、プレゼンテーション「東京消防庁の防災対策」において、東京消防庁の自助・共助・公助に係る災害対策政策を紹介した。自助・共助のための個人安全規定、防災訓練への参加、啓発活動、消防隊員の能力向上、ボランティア団体との連携など、地震対策に基づく様々な政策が紹介された。
- 12 東京都総務局総合防災部防災計画課 新井信彰課長代理 (計画調整担当) は、「2016年熊本地震での支援を踏まえた防災対策の向上」についてプレゼンテーションを行い、首都直下型大地震の危険性を説明するとともに、熊本地震 (マグニチュード7) の経験から得た教訓、今後の取組の方向性について述べた。

サブテーマ「未来の技術を活用したスマート防災システム」に関する参加都市のプレゼンテーション

- 13 SMFDH 第4次未来産業タスクフォース ホン・ジンヒ チームマネージャーは、第四次産業革命における中心的なテクノロジー及びSMFDHが現在実施中の7つの主なプロジェクト (①IoTに基づく災害予兆モニタリング及び自動コールシステム (ACS) ②自動音声認識による対応窓口③スマート画像の共有プラットフォーム④患者情報統合システム⑤ソウル火災安全マップの再構築⑥デジタル交通管制システムの導入⑦情報戦略計画 (ISP)) を紹介した。プレゼンテーションのタイトルは「災害対策における第四次産業革命のテクノロジー」であった。
- 14 プレゼンテーション「将来の実施に向けた危機対応戦略」においてシンガポール民間防衛局のエリック・ヤップ長官は、限られた人員で市民の高まる期待に応えるため、テクノロジーの活用と地域コミュニティの対応力強化が重要であると強調し、災害対策の枠組みを変えることの重要性について説明した。

- 15 警視庁警備部災害対策課 品田一彦理事官は、プレゼンテーション「被害状況を早期把握するためのシステムの活用と関係機関との連携による救出救助」において、日本で近年発生した地震について説明し、警視庁が、被害状況を迅速に把握するためどのようにシステムを活用し、どのように関係機関と連携し救助活動を行うかについて述べた。

#### サブテーマ「環境の変化を踏まえた防災戦略の更新」に関する参加都市のプレゼンテーション

- 16 ジャカルタ消防救助局 S・H・スベジョー局長は、「火災への緊急対応とリスク軽減計画」において、ジャカルタにおける危機管理の課題を説明するとともに、法整備、地域コミュニティの参画、データ収集の技術向上といった火災緊急対策を共有した。
- 17 ロンドン市消防局特別オペレーション班ピーター・クリッチェル長官副補佐官は、「ロンドンのテロ攻撃－防災戦略」についてプレゼンテーションを行った。同氏は、災害への対応を確保し、災害から復旧するための、事案の規模に基づく段階的な対応戦略について説明し、ロンドンのテロ攻撃の実例を示しながら、環境、市民、第一対応者（ファーストレスポnder）、各機関が連携しながらリスク軽減を図ることの重要性を述べた。

#### 事務局報告（東京都）

- 18 危機管理ネットワーク事務局 兼 東京都政策企画局外務部の井上智美事業担当課長は、人材育成、知識の共有、情報交換といったネットワークの枠組みについて説明した。また、危機管理会議 2017 の開催や、東京における「総合防災訓練」及び「救助技術研修」、シンガポールにおける「都市における捜索・救助研修（IUSAR コース）」へのネットワーク都市の参加など、危機管理ネットワークの年間実績について述べた。また、新北市とロンドン市が新たに危機管理ネットワーク参加都市となった旨報告した。さらに、新北市が危機管理会議 2018 の開催都市となる旨を発表した。

#### 次回開催都市挨拶

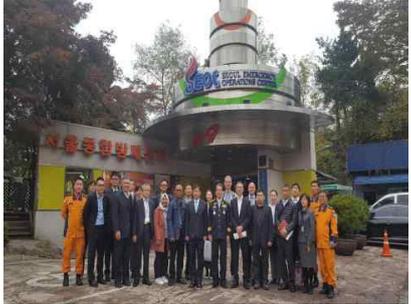
- 19 新北市消防局チェン・ツン・ヨウ副局長は、新北市が次回開催都市に選ばれたことに対し、東京都に深い感謝の意を述べた。また、全ての参加者に対し、新北における来年の危機管理会議 2018 への参加を呼び掛けた。

#### 議長総括及び閉会挨拶

- 20 SMFDH チョン・ムンホ長官は、危機管理のために先進技術を活用することの必要性及び各プレゼンテーションから得られた学ぶべきポイントを強調し、会議を閉会した。また、危機管理ネットワークがさらに拡充することへの期待を表明した。会議の最後に長官は、参加者全員を歓迎夕食会に招待した。議長総括は、別添資料 4 を参照のこと。

## 危機管理関連施設視察・ソウル文化視察

21 参加者は、ソウル危機管理センター、事案指揮研修センター（Incident Command Training Center: ICTC）、恩平（ウンピョン）消防署、ヨイド水難救助センターの4か所の危機管理関連施設を視察した。

<p>ソウル 危機管理 センター</p>	<p>災害状況管理センターと、市民保護管理庁の状況管理機能を統合した機関として、ソウル危機管理センターはシステム構築された科学安全ネットワークを有し、危機管理の総合司令塔の役割を果たしている。</p>	
<p>事案指揮研修 センター (ICTC)</p>	<p>3D仮想現実（VR）技術を用いた疑似体験（シミュレーション）をベースとする、消防隊員のための大規模災害研修センター。</p>	
<p>恩平 (ウンピョン) 消防署</p>	<p>ソウル市に24カ所ある消防署のひとつ。恩平地区を所管する。</p>	
<p>ヨイド 水難救助 センター</p>	<p>漢江（ハンガン）における救助活動を所管するセンターは4つある。そのうち、ヨイド水難救助センターの救助隊は、漢江における救助システムの提供を行っている。</p>	

## 22 ソウル文化視察

海外からの参加者は SMFDH 職員の案内により、ソウル市内の歴史・文化地区の視察を行った。

## 参加者名簿

## ■海外からの参加者（敬称略）

No.	氏名	役職	所属	都市
1	清水 洋文	企画調整部長	東京消防庁	東京
2	佐伯 憲一	総務部総務課 国際業務係副主任		
3	品田 一彦	警備部災害対策課 理事官	警視庁	
4	池田 直	警備部災害対策課 災害警備係長		
5	新井 信彰	総務局総合防災部防災計画課 課長代理（計画調整担当）	東京都庁	
6	井上 智美	外務部事業課 事業担当課長		
7	木下 恵理	外務部事業課 課長代理（国際事業担当）		
8	大場 伊都子	外務部事業課 主任		
9	チェン・ツン・ヨウ	副局長	新北市消防局	新北
10	チャン・イホン	シニア技術専門家		
11	ニウ・イェンユ	職員		
12	シュウ・チンシェン	副局長	台北市消防局	台北
13	ヨウ・チンフェン	部長		
14	S・H・スベジヨー	局長	ジャカルタ 消防救助局	ジャカルタ
15	イカ・ラチュマワティ	国際協力局係長	ジャカルタ特別市	
16	ロズラン・ワハブ	副局長	マレーシア 市民保護局	クアラルンプール
17	エリック・ヤップ	長官	シンガポール 民間防衛局	シンガポール
18	アンソニー・トー	第2本部指揮部門長		
19	ピーター・クリッチェル	特別オペレーション班 長官副補佐官	ロンドン市消防局	ロンドン
20	フィリップ・ド・ ウェルギフォス	隊長	ブリュッセル 消防局	ブリュッセル

**別添資料 1**

**■現地参加者（ソウル）※幹部職員のみ**

No.	氏名	役職	所属
1	チョン・ムンホ	長官	ソウル市消防災難本部 (SMFDH)
2	イ・ジェウオン	副市長	ソウル特別市 (SMG)
3	ジュ・チャンシク	委員長	ソウル市議会都市安全建設委員会
4	キム・チャンオ	教授	ソウル国立科学技術大学
5	アナ・クリスティーナ・ソーランド	プログラムオフィサー	国連国際防災戦略事務局 (UNISDR)
6	キム・ソンヨン	火災管理部課長	ソウル市消防災難本部 (SMFDH)
7	キム・ハクジュン	災害対策部課長	ソウル市消防災難本部 (SMFDH)
8	イ・ホンソプ	火災防止部課長	ソウル市消防災難本部 (SMFDH)
9	キム・ソンヨン	安全支援部課長	ソウル市消防災難本部 (SMFDH)
10	オ・ジョンイル	野外活動部課長	ソウル市消防災難本部 (SMFDH)
11	キム・フンゴン	監査・監察部課長	ソウル市消防災難本部 (SMFDH)
12	イ・ソンムク	課長	ソウル危機管理センター (SEOC)
13	チェ・ソンヒ	所長	ソウル 119 特別救助サービス
14	キム・ミョンホ	学校長	ソウル消防学校
15	パク・クンジョン	署長	鍾路消防署
16	ユン・ドクス	署長	ジュンブ消防署
17	キム・ヒョン	署長	広津消防署
18	チェ・ソンソプ	署長	龍山消防署
19	イ・ヨンウ	署長	東大門消防署
20	イ・グイホン	署長	永登浦消防署
21	ミン・チュンギ	署長	城北消防署
22	チョン・ジェフ	署長	恩平消防署

**別添資料 1**

No.	氏名	役職	所属
23	キム・シチョル	署長	江南消防署
24	キム・ジェハク	署長	瑞草消防署
25	キム・ビョンロ	署長	江西区消防署
26	クオン・ヒョクミン	署長	カンドン消防署
27	パク・スンイル	署長	麻浦消防署
28	キム・ヒョンチョル	署長	道峰消防署
29	チャン・ヒョンテ	署長	九老消防署
30	キム・ユンソプ	署長	蘆原消防署
31	ファン・インファン	署長	冠岳消防署
32	イ・ジョンヒ	署長	松坡消防署
33	キム・ヨンジュン	署長	ヤンチョン消防署
34	ヒョン・ジンス	署長	中浪消防署
35	パク・チャンホ	署長	銅雀消防署
36	ソ・スンタク	署長	西大門消防署
37	ペク・ナムフン	署長	江北消防署
38	キム・ソンヘ	署長	城東消防署
39	ホン・ジンヒ	第4未来産業タスクフォース チームマネジャー	ソウル市消防災難本部 (SMFDH)
40	イ・ウンギ	火災ポリシー班長	ソウル市消防災難本部 (SMFDH)
41	チョン・ジンギ	組織・予算班長	ソウル市消防災難本部 (SMFDH)
42	キム・ヒョンジョン	人事班長	ソウル市消防災難本部 (SMFDH)
43	クオン・オドク	会計班長	ソウル市消防災難本部 (SMFDH)
44	パク・ジョンギョン	指揮官	ソウル市消防災難本部 (SMFDH)
45	イ・チャンシク	対応戦略班長	ソウル市消防災難本部 (SMFDH)

**別添資料 1**

No.	氏名	役職	所属
46	ヤン・チョルグン	救急計画班長	ソウル市消防災難本部 (SMFDH)
47	チョン・ギョ Chol	非常医療管理班長	ソウル市消防災難本部 (SMFDH)
48	ジャン・マンスク	火災防止班長	ソウル市消防災難本部 (SMFDH)
49	キム・ミョンシク	火災探知班長	ソウル市消防災難本部 (SMFDH)
50	キム・チャンソプ	ガス・Hazmat 班長	ソウル市消防災難本部 (SMFDH)
51	オ・ジェギョン	広報計画班長	ソウル市消防災難本部 (SMFDH)
52	キム・ヨングン	機材管理班長	ソウル市消防災難本部 (SMFDH)
53	イ・ジンヒ	市民保護啓発班長	ソウル市消防災難本部 (SMFDH)
54	キム・ヒョングク	電子通信班長	ソウル市消防災難本部 (SMFDH)
55	チャン・ヒョンスン	安全・保健医療班長	ソウル市消防災難本部 (SMFDH)
56	ソン・ビョンドウ	指揮・統制班長	ソウル市消防災難本部 (SMFDH)
57	ユン・ヨンジェ	火災調査班長	ソウル市消防災難本部 (SMFDH)
58	ホン・ソンサム	災害分析班長	ソウル市消防災難本部 (SMFDH)
59	キム・ギルジュン	災害調整班長	ソウル市消防災難本部 (SMFDH)
60	キム・ジュン Chol	市民保護班長	ソウル市消防災難本部 (SMFDH)
61	チェ・ソンボム	監査班長	ソウル市消防災難本部 (SMFDH)
62	キム・ヨンテ	監査総括班長	ソウル市消防災難本部 (SMFDH)
63	キム・ギョングン	調査班長	ソウル市消防災難本部 (SMFDH)

その他、約 37 名が出席（事務局職員、聴講者等）

## 危機管理会議 2017 プログラム

## ■2017年11月6日（月曜日）本会議

時間	プログラム	
9:00 - 9:30	登録	
9:30-10:20	開会式典	開会宣言・参加者紹介
		開会挨拶（ソウル市消防災難本部 チョン・ムンホ長官）
		歓迎挨拶（ソウル特別市 イ・ジェウオン副市長）
		祝辞（ソウル市議会都市安全建設委員会 ジュ・チャンシク委員長）
		グローバル・セーフ・セレモニー
		集合写真
10:20-10:50	休憩	
10:50-11:30	基調講演	韓国における自然災害管理システムの展望 ソウル国立科学技術大学 キム・チャンオ教授
		災害リスク低減のための仙台枠組 国連国際防災戦略事務局（UNISDR）プログラムオフィサー アナ・クリスティーナ・ソーランド
11:30-12:30	セッション1	
	プレゼンテーション (3)	災害対策における第四次産業革命のテクノロジー ソウル市消防災難本部（SMFDH） ホン・ジンヒ
		危機管理における意思決定のプロセス ブリュッセル消防局 フィリップ・ド・ウェルギフォス
		火災災害への対応とリスク軽減計画 ジャカルタ消防救助局 S・H・スベジョー
12:30-14:30	昼食	
14:30-15:50	セッション2	
	プレゼンテーション (4)	市民社会の防災力強化 マレーシア市民保護局 ロズラン・ワハブ
		新北市における災害管理の実施と遂行ーより安全な都市の構築 新北市消防局 チェン・ツン・ヨウ
		ロンドンのテロ攻撃ー災害対策戦略 ロンドン市消防局 ピーター・クリッチェル
		将来の実施に向けた危機対応戦略 シンガポール民間防衛局 エリック・ヤップ
15:50-16:10	休憩	
16:10-17:10	セッション3	
	プレゼンテーション (3)	東京消防庁の防災対策 東京消防庁 清水洋文
		被害状況を早期把握するためのシステムの活用と関係機関との連携による救出 救助／ 警視庁 品田一彦
		2016年の熊本地震での支援を踏まえた防災対策の向上 東京都総合防災部 新井信彰
17:10-17:20	休憩	
17:20-17:45	閉会	事務局報告
		次回開催都市の発表
		次回開催都市挨拶
		議長総括及び閉会挨拶

## ■2017年11月7日（火曜日）危機管理関連施設視察・ソウル文化視察

時間	プログラム
9:30 - 10:20	施設視察：ソウル危機管理センター
11:00 - 11:40	施設視察：事案指揮研修センター（ICTC）
11:40 - 12:20	施設視察：恩平（ウンピョン）消防署
12:20 - 13:20	昼食
14:00 - 15:00	施設視察：水難救助センター
15:00 - 20:00	ソウル文化視察

## チョン・ムンホ ソウル市消防災難本部長官による開会挨拶

皆様、おはようございます。ソウル市消防災難本部長官チョン・ムンホです。世界各国からいらした危機管理関係者の皆さんを歓迎いたします。意義深い席で一緒にできることを嬉しく思います。

2003年に東京で初の会議が開催されて以来、今回の会議を含む15回の会議の中で、ソウルで開催されるのは3回目です。危機管理ネットワークはグローバルな協力関係に拡大され、危機管理会議の位置づけも高まっています。

この席には学术界、産業界、公務員など、世界各国から多くの関係者が参加しています。東京、台北、新北、ジャカルタ、クアラルンプール、シンガポール、ロンドン、ブリュッセルの来賓の皆様、また、ウォン副市長、ジュ・チャンシク委員長の御出席に感謝申し上げます。そして、「韓国における自然災害管理システムの展望」、「災害リスク低減のための仙台枠組」というテーマで基調講演をしてくださるソウル国立科学技術大学キム・チャンオ教授と国連国際防災戦略事務局（UNISDR）アナ・クリスティーナ・ソーランド様にも感謝いたします。

最近、「ハリケーン・ハービー」「ハリケーン・イルマ」によって650万人にのぼる米国の住民が避難しました。2013年には「ハイエン台風」がフィリピンに上陸し、6千人以上が命を失いました。このように、自然災害によって世界的に莫大な人的・経済的損失が発生しています。しかし、このような災害は、今後起こりうる災害の一部に過ぎません。

異常気象現象、都市化と老朽化により、災害リスクは高まっています。特に都市空間は、人口や施設の密集、高齢化、各種都市施設と活動が相互に依存する関係にあること、地下空間の開発などにより、災害による被害規模の予測が困難です。災害リスク要因が徐々に増加している中、災害リスク軽減の方策を講じることが切実に求められています。

今年の危機管理会議のテーマは、「未来を志向した防災の展開の方向性」です。科学的な危機管理に対する社会的ニーズが拡大する中で、ビッグデータ、IoT、人工知能などの先端技術を災害対応にどのように取り入れて備えるべきか、ということです。

今、人類は、祖先が地球に住み始めてから、かつて経験したことの無い激変の時代に入っています。第4次産業革命は、経済、政治、日常生活のすべての分野において、文字どおり革命を呼び起こします。この革命は、人々に興奮と不安を同時に抱かせます。

第4次産業革命がもたらすインパクトは、予想よりもはるかに早く世界を襲い、はるかに大きく世界を変化させます。それに備えることの重要性は、どんなに強調してもしすぎるといえることはありません。今回の危機管理会議もそのような備えの一環となります。

国内外の来賓の皆様！

安全は幸せな生活を享受するための最も基本的な前提条件です。世界の都市は、それぞれに状況が異なるため、これを一般化することは容易ではないでしょう。しかし、各国における災害への対応の経験と事例は、参加都市の皆様にとって大いに役に立つと信じています。

今回の会議が、各都市の災害対応に役立つ、創造的で生産的な場となることを祈念いたします。

ありがとうございました。

## **イ・ジェウオン ソウル特別市副市長による歓迎挨拶**

皆様、はじめまして。第15回危機管理会議出席のため御集り下さりありがとうございます。今年の会議がソウルで開催されることを非常に光栄に思います。皆様に心から歓迎いたします。

今日、世界の多くの都市で都市化が進んでいます。都市化は、多くの都市に住む市民の生活の質を大幅に向上するものです。しかし、別の側面から見ると、都市化は、気候変動、異常気象、津波、洪水などの多くの課題を伴うものであり、リクス被害を増加させうるものです。

グローバル企業である保険会社ロイズによると、都市の規模が大きいほど、災害に端を発する経済的被害の影響によりさらされやすくなります。本日の会議出席者は大都市からお越しであり、危機管理を担う当局の方々です。我々が直面している課題を克服するためには、互いに協力することが重要です。この会議を通して我々が、情報交換、専門知識の共有、結束の強化を図れますよう祈っております。すべての出席者にとって貴重な経験となるであろうことを確信しております。

海外からお越しの出席者の皆様、特に、今回ソウルを初めて訪れる方々。ソウルは600年の歴史があり、伝統と現代が調和する文化を有しております。皆様におかれては、この機会を捉え、ソウルという美しい都市の多様な文化遺産、文化施設を発見して頂ければ幸いです。

どうもありがとうございました。

**ジュ・チャンシク ソウル市議会都市安全建設委員会委員長による祝辞**

おはようございます。ソウル市議会都市安全建設委員会委員長ジュ・チャンシクです。

本日、ソウル市庁舎で危機管理会議 2017 を開催する運びになりましたことを誠に意義深く思っております。

また、会議開催を支援し、御出席くださったウォン副市長とチョン・ムンホ消防災難本部長官に感謝申し上げます。

今回、ソウルで3回目の開催となる「危機管理会議」は、全世界の災害の専門家たちが参加し、国内外の危機管理情報を共有し、協力を強化するために役立ってきたと承知しています。

特に「未来を志向した防災の展開の方向性」をテーマに開催する今回の会議は、世界的にも非常に重要とみなされるだろうのみならず、多くの各都市の安全のための深い議論の場になるであろうことを確信しております。

世界は今、「危機管理ネットワークの時代」を迎えています。気候変動、感染症、安全保障危機等を含む世界的災害のほとんどは、我々が国際的共助の重要性を認識するきっかけとなります。

このような災害の状況を継続して管理しながら、被害の範囲を最小化できるよう、ネットワークをさらに拡大するべきだと思います。

各参加都市の危機管理担当者と専門家が一堂に会し、知識と経験を共有する危機管理会議は、多くの都市とのコミュニケーションを通じ、都市の安全と調和を図る大きな助けになると確信しています。

この会議が、有益な知識を積み重ねる場となるとともに、ひとつの時代を代表する素晴らしい会議となることを祈念します。

ありがとうございました。

**チョン・ムンホ ソウル市消防災難本部長官による議長総括及び閉会挨拶  
(2017年11月6日、於ソウル市庁舎)**

皆様、会議の最後までご同席頂きありがとうございます。

我々は様々な環境の変化にさらされており、開会挨拶でも触れましたとおり、気候変動に伴う事象が発生するとともに、都市化、急速な高齢化による災害リスクが高まっています。

また、我々はIoT、ビッグデータといった技術革新にも直面しており、こうした科学的対応は我々が応えるべき任務です。異常な気象現象と高齢化は、いずれも我々にとって重大な課題です。それら課題は、危機管理当局を担う者として、我々が乗り越えなければならないものです。そのためには、科学的・技術的な打開策が必要になります。より良いリスク管理のため、こうした科学発展の活用は必須です。しかしもちろん必要になるのはそれだけではありません。

皆様のプレゼンテーションを拝聴しながら、経験を共有すること、互いに協力すること、異なる分野であっても関係機関と連携することの必要性に思い至りました。危機管理を考える時、非常に重要な点であり、今回の会議を通して我々が情報交換を行えたこと、それこそが重要なことなのです。というのも、より良いリスク要因の評価が可能になるからです。そして、こうした機会によって危機や災害を乗り越えるためのシステムについて、より良い着想を得ることができるからです。

情報交換は 課題に直面している中では特に重要であり、危機管理会議は我々が課題を解決するための助けとなることを確信しています。我々の眼前には、人々の生命と幸福を脅かす多くの課題が横たわっていますが、我々ネットワーク参加都市がともに注力し、同じ目的に向かって立ち向かえば、必ずやこれらの課題を乗り越え、世界を安心できる場所、より良く、より繁栄した場所にすることができると信じています。

経験や懸念、そして未来について共有くださった9都市の発表者の皆様に改めて御礼申し上げます。また、ソウルにお越しくくださった皆様、特に海外からはるばる参加くださった東京、台北、新北、ジャカルタ、クアラルンプール、シンガポール、ロンドン、ブリュッセルの皆様に御礼申し上げます。

今回を契機に、皆様との友好と協力の絆がより深まり、強いものとなることを祈念し、本年の危機管理会議を閉会したいと思います。

ありがとうございました。